

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21320086

研究課題名(和文) 日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築

研究課題名(英文) Construction of "Comprehensive dictionary of Japanese dialects grammar" and its online edition

研究代表者

日高 水穂 (HIDAKA, Mizuho)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：80292358

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,400,000円、(間接経費) 4,320,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の編纂を目的として現地調査、方言文献資料調査、歴史的変異調査を行い、さらに調査データを集積するウェブシステムを構築してきた。本研究期間の研究成果として、(1)活用体系の地理的変異と歴史的変異の総合的考察をテーマとした学会発表、(2)要地方言の活用体系を記述した『全国方言文法辞典資料集(2)活用体系』の刊行、(3)条件表現・逆接表現の調査方針を示した『『全国方言文法辞典』のための条件表現・逆接表現調査ガイドブック』の刊行、(4)条件表現の地理的変異に関する学会発表を行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, we conducted three different surveys; the linguistic field survey on inflections and complex sentences, the research on folktale corpora of Japanese dialects, and the historical research on variations of inflections. A web-based system was constructed to accumulate and share data collected from research fields. Based on the surveys, we had two presentations on historical/geographical variations of Japanese inflectional morphology, and on geographical variations of conditionals in Japanese. We also contributed two publications, "Data book for the comprehensive dictionary of Japanese dialects grammar, volume 2, inflectional morphology" and "Guidebook for the linguistic field research on complex sentences in Japanese dialects".

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：方言文法 対照方言学 活用体系 接続表現 地理的変異 歴史的変化

### 1. 研究開始当初の背景

日本語の研究は、これまで主に中央語・標準語を中心に、詳細な記述や理論化が進められてきた。一方で、「日本語」を、日本列島の各地で過去に使用され、また、現在使用されている方言を含んだ総体であると考えれば、その全体像を把握するための俯瞰的な資料は、まだ十分に整備されているとは言えない状況である。

現代語を対象にした共時的な文法研究が一定の成果を収めつつある現在、そうした研究成果を応用・検証・発展させる研究の方向として、古典語や方言を対象とした文法研究の精密化が行われるようになってきている。一方で、方言研究においてこうした取り組みをより発展させるためには、個々の方言に関する網羅的な記述とともに、どの方言にどのような文法現象があるかということが、俯瞰的に把握されていることが必要である。方言研究の分野には、すでに膨大な調査データの蓄積があるが、それらは誰もが容易に活用できる形にはなっておらず、また、記述の対象となる文法項目・方言も網羅的なものとはなっていない。今後の研究の進展のためには、既存の方言文献資料のデータベース化と、諸方言の網羅的な文法記述を進めることが必要である。

### 2. 研究の目的

本研究では、中央語・標準語に限定せず、地理的変異（方言差）および歴史の変異（時代差）を考慮に入れた日本語文法の全体像を把握することを目的に、各地方言の現地調査、方言文献資料調査、歴史の変異調査を行う。さらに、調査データを集積するウェブシステムを構築し、一般公開をはかる。

本研究の最終的な目的は、これまで方言学の分野で集積されてきた諸方言の文法に関する記述の中から、文法形式を網羅的に取り上げ、さらに統一的な観点のもとに記述を精密化し、全国方言の文法現象を一望できる『全国方言文法辞典』を編むことである。これによって、「方言研究」と「日本語研究」の境界をいったん解消し、いずれは、すべての日本語研究が地理的変異（方言差）を把握したうえで行われるようになるための一助としたい。

### 3. 研究の方法

(1) 記述の対象と方法：本研究では、方言文法の記述対象を、(a) 述語の活用体系、(b) 述語句を構成する文法カテゴリー（ヴォイス、アスペクト、テンス、否定、モダリティ、敬語）、(c) 名詞句を構成する文法カテゴリー（格、主題・とりたて）、(d) 接続句を構成する文法カテゴリー（条件、逆接、原因理由）に大別し、さらに下位分類となる文法カテゴリーについて、共通調査項目を作成し、調査・記述を行う。本研究期間内においては、述語の活用体系および接続表現に関する記

述と対照研究のための枠組みを構築する。

(2) ウェブ入力システムの構築：共通調査項目の調査結果を、調査者が各自でウェブ入力システムによって報告し、即時的にデータを共有できるようにする。

(3) 方言文法用例データベースの構築：方言談話資料、方言昔話資料のテキストデータ化を進め、記述対象となる文法項目を含む用例を抽出した方言文法用例データベースを構築する。

### 4. 研究成果

(1) 活用体系の記述および対照研究

(1-1) 日本語文法学会第 12 回大会（2011 年 12 月 4 日、東京外国語大学）において、「日本語動詞活用の歴史と地理的変異の総合的理解」と題したパネルセッション（発表者：小柳智一・小西いずみ・仲原穰、司会：日高水穂）を行った。本研究課題の成果として、諸方言の活用体系を統一的に記述する枠組みを示し、中央語の活用体系の歴史的变化との照合、琉球方言の活用体系の記述への適用について議論した。

(1-2) 活用体系の統一的な記述の枠組みを示し、要地方言の活用体系の記述を行った『全国方言文法辞典資料集（2）活用体系』を刊行した。目次は以下の通りである。

《概説》活用体系の地理的変異と記述の枠組み（小西いずみ）／中央語における動詞活用の歴史（小柳智一）／《要地方言の活用体系記述》岩手県盛岡市方言（竹田晃子）／秋田県由利本荘市本荘方言（日高水穂）／山梨県甲府市方言（吉田雅子）／富山県富山市方言（小西いずみ）／岐阜県岐阜市方言（山田敏弘）／滋賀県長浜市方言（酒井雅史）／京都府京都市方言（松丸真大）／大阪府方言（野間純平）／山口県東周防方言（船木礼子）／福岡県福岡市方言（平塚雄亮）／沖縄県那覇市首里方言（仲原穰）／沖縄県宮古島市平良下里方言（中本謙）／《資料》要地方言の活用対照表（小西いずみ）

(2) 接続表現の記述および対照研究

(2-1) 条件表現・逆接表現の統一的な記述の枠組みを示した『『全国方言文法辞典』のための条件表現・逆接表現調査ガイドブック』を刊行した。目次は以下の通りである。

《条件表現》条件表現共通調査項目解説（前田直子）／条件表現の全国分布概観（三井はるみ）／条件表現共通調査項目／条件表現会話例／《逆接表現》逆接表現共通調査項目解説（前田直子）／逆接表現の全国分布概観（小西いずみ・竹田晃子）／逆接表現（ケレドモ・ノ二類）共通調査項目／逆接表現（テモ類）共通調査項目／逆接表現会話例

(2-2) 日本語文法学会第 14 回大会（2013 年

12月1日、早稲田大学)において、「認識的条件文の地理的変異と歴史的变化」と題したパネルセッション(発表者:有田節子・日高水穂・矢島正浩,司会・指定討論者:江口正)を行った。本研究課題の成果として、日高が「認識的条件文の地理的変異」と題した発表を行い、日本語における認識的条件文の構文の特徴と発達過程について議論した。

### (3) ウェブ入力システムの構築

(3-1) 条件表現・逆接表現の共通調査項目の調査データを共有するためのウェブ入力システムを完成させた。

(3-2) 情報処理学会第72回全国大会(2010年3月9日、東京大学)において、「Web版「全国方言文法辞典」の構築に向けて 調査データの報告システム開発について」(林良雄・日高水穂)と題した発表を行った。

### (4) 方言文法用例データベースの構築

(4-1) 方言昔話資料のテキストデータ化を進め、接続表現、ノダ相当表現、命令表現、敬語表現の用例抽出を行った。

(4-2) 方言昔話資料の分析を通して得た知見をもとに、日本語学会2013年度春季大会(大阪大学,2013年6月2日)において、「昔話の「語りの型」の地域差 文末表現を中心に」(日高水穂)と題した発表を行った。

## 5. 主な発表論文等

### 〔雑誌論文〕(計11件)

船木礼子(橋本礼子)「山口東部方言における条件表現形式ト」『神女大國文』25, 査読無, 2014, 42-51(横組8-17)

小西いずみ・井上優「富山県呉西地方における尊敬形「~テヤ」意味・構造の地域差と成立・変化過程」『日本語の研究』9-3, 2013, 35-47

竹田晃子「東北方言における極限のとりたて助詞サエ」『フェリス女学院大学文学部紀要』47, 査読無, 2012, 165-178

竹田晃子「山形県米沢市方言・山形市方言における条件表現の研究」『大正大学研究紀要』97, 査読無, 2012, 119-126

船木礼子(橋本礼子)「京都市方言の接続助詞・終助詞「シ」の用法」『論究日本文学』96, 査読無, 2012, 11-28

林良雄「「全国方言文法辞典」におけるWebによる調査データの報告システム開発について」『情報処理学会研究報告・人文科学とコンピュータ研究会報告』95-3, 査読無, 2012, 1-6

日高水穂「やりもらい表現の発達段階と地理的分布」『日本語学』30-11, 査読無, 2011, 16-27

小西いずみ「出雲方言における「一段動詞のラ行五段化」に関する覚書」『論叢国語教育学』7, 査読無, 2011, 49-60

三井はるみ「九州西北部方言の順接仮定条件形式「ギー」の用法と地理的分布」『國學院雑誌』112-12, 査読無, 2011, 26-39

船木礼子(橋本礼子)「カジュアルスタイルにおける方言切換え 形式の受容と切換えの要因」『神女大國文』22, 査読無, 2011, 66-85(横組1-20)

小西いずみ「西日本方言における引用標識ゼロ化の定量分析 生起頻度と言語内的要因の方言間異同」『広島大学大学院教育学研究科紀要第二部(文化教育開発関連領域)』59, 査読無, 2010, 123-132

### 〔学会発表〕(計5件)

パネルセッション「認識的条件文の地理的変異と歴史的变化」日本語文法学会第14回大会(早稲田大学,2013年12月1日):有田節子「現代日本語文法における認識的条件文の位置づけ」/日高水穂「認識的条件文の地理的変異」/矢島正浩「認識的条件文の成立」/司会者・指定討論者:江口正

日高水穂「昔話の「語りの型」の地域差 文末表現を中心に」日本語学会2013年度春季大会(大阪大学,2013年6月2日)

小西いずみ・井上優「富山県呉西地方における尊敬形「~テヤ」のアスペクトと活用」日本語学会2012年度秋季大会(富山大学,2012年11月4日)

パネルセッション「日本語動詞活用の歴史と地理的変異の総合的理解」日本語文法学会第12回大会(東京外国語大学,2011年12月4日):小柳智一「中央語における動詞活用の歴史」/小西いずみ「動詞活用の通方言的記述法」/仲原穰「琉球方言の動詞活用と西日本方言との関わり 首里方言を中心に」/司会者:日高水穂

林良雄・日高水穂「Web版「全国方言文法辞典」の構築に向けて 調査データの報告システム開発について」情報処理学会第72回全国大会(東京大学,2010年3月9日)

〔図書〕(計7件)

方言文法研究会編(編集代表:日高水穂)  
『全国方言文法辞典(2)活用体系』科研  
費研究成果報告書, 2014, 183

木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高  
水穂・三井はるみ編著『方言学入門』三  
省堂, 2013, 143

日高水穂「複合辞「という」の文法化の  
地域差」『形式語研究論集』(藤田保幸編,  
和泉書院), 2013, 285-300

小西いずみ「西日本方言における「と言  
う」「と思う」テ形の引用標識化」『形式  
語研究論集』(藤田保幸編, 和泉書院),  
2013, 301-318

小西いずみ「西日本方言における尊敬形  
「～テ(ヤ・ジャ・ダ)」の活用」『日本  
語史の新視点と現代日本語』(小林賢  
次・小林千種編, 勉誠出版), 2013,  
400-417

日高水穂「昔話と方言」『子守唄と民話』  
(石井正己編, 三弥井書店), 2013,  
165-177

方言文法研究会編(編集代表:日高水穂)  
『『全国方言文法辞典』のための条件表  
現・逆接表現調査ガイドブック』科研費  
研究成果報告書, 2010, 67

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等  
方言文法研究会・全国方言文法データベース  
<http://hougen.sakura.ne.jp/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

日高 水穂(HIDAKA, Mizuho)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号: 80292358

(2)研究分担者

小西 いずみ(KONISHI, Izumi)  
広島大学大学院・教育学研究科(研究院)・  
准教授  
研究者番号: 60315736

竹田 晃子(TAKEDA, Koko)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構  
国立国語研究所・時空間変異研究系・助教  
研究者番号: 60423993

橋本(船木) 礼子(HASHIMOTO(FUNAKI),  
Reiko)  
神戸女子大学・文学部・准教授  
研究者番号: 00454736

吉田 雅子(YOSHIDA, Noriko)  
実践女子大学・文学部・非常勤講師  
研究者番号: 50399490  
(平成24年度より連携研究者)

林 良雄(HAYASHI, Yoshio)  
秋田大学・教育文化学部・教授  
研究者番号: 90211490

(3)連携研究者

青木 博史(AOKI, Hirofumi)  
九州大学大学院・人文科学研究院・准教授  
研究者番号: 90315929

大西 拓一郎(ONISHI, Takuichiro)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構  
国立国語研究所・時空間変異研究系・教授  
研究者番号: 30213797

小柳 智一(KOYANAGI, Tomokazu)  
聖心女子大学・文学部・准教授  
研究者番号: 80380377

高木 千恵(TAKAGI, Chie)  
大阪大学大学院・文学研究科・准教授  
研究者番号: 50454591

仲原 穰(NAKAHARA, Jo)  
琉球大学・大学教育センター・非常勤講師  
研究者番号: 60536689

中本 謙(NAKAMOTO, Ken)  
琉球大学・教育学部・准教授  
研究者番号: 10381196

前田 直子(MAEDA, Naoko)  
学習院大学・文学部・教授  
研究者番号: 30251490

松丸 真大(MATSUMARU, Michio)  
滋賀大学・教育学部・准教授  
研究者番号: 30379218

三井 はるみ(MITSUI, Harumi)  
大学共同利用機関法人人間文化研究機構  
国立国語研究所・理論・構造研究系・助教  
研究者番号: 50219672

山田 敏弘(YAMADA, Toshihiro)  
岐阜大学・教育学部・教授  
研究者番号: 90298315